

## 適正施設ガイドライン

【グレビーシマウマ *Equus grevyi*】

2021年3月

公益社団法人日本動物園水族館協会

## 1 施設概要

### 1-1 寝室

#### 1) 温度・湿度

グレビーシマウマは幅広い気温に耐えることができるが、夏場の高温や冬場の低温時は温度管理をすることが望ましい。特に室内が凍結するような場合には温度管理が必要となる。また、湿度が低いと呼吸器系疾患のリスクが高まるため、冬季に暖房装置を使用する場合は湿度に注意する。

#### 2) 面積

面積は 10 m<sup>2</sup>/頭以上 (EAZA : 2.4m×3.0m)、産室や繁殖牝馬・仔馬用寝室は 12 m<sup>2</sup>以上 (EAZA : 3.1m×3.0m) が必要である。

#### 3) 床面材質

アスファルトやコンクリート、耐水性で継ぎ目のないゴムなど適切な素材とする。またケミカルクリートなどを使用し、床面が滑る場合には、床面に滑り止めの加工をする。床材はワラ、おがくずなどを必要に応じ使用できるが、仔馬がいる時にはおがくずは使用しない。

#### 4) 寝室内設備

餌は床に直接置くのが望ましい。草架などを用いる場合は、飼育個体が頭を打たない高さに設置する。また、給餌器のバーの間隔は仔馬の蹄が入らないように 5cm 以下とするか、入ってもすぐ抜けるように間隔を開ける。

グラウンドでも寝室内でも飲水は自由にできるようにする。

350kg のウマは 1 日 15~18ℓの水を必要とするため、寝室内の飲水器は 40ℓ以上のサイズが望ましい。

#### 5) その他構造

寝室間の壁の上部はメッシュやバーなどとし、個体間で嗅覚や視覚を用いてコンタクトができるようにする。

### 1-2 グラウンド

#### 1) 温度・湿度

グレビーシマウマは、気温や気候に耐えることができる。しかし、35℃を超える場合や氷点下になる場合は、室内に收容するのが望ましい。

#### 2) 面積

非繁殖群（メスと子供）の場合 100 m<sup>2</sup>/頭以上 (AZA : 92.32 m<sup>2</sup>/頭以上)、繁殖群（オス、メスと子供）の場合は 185 m<sup>2</sup>/頭以上 (AZA : 185 m<sup>2</sup>/頭以上)、バッチェラー群は 185 m<sup>2</sup>/頭以上 (AZA : 185 m<sup>2</sup>/頭以上) が必要である。

繁殖させない場合や妊娠中のメスが出産準備をしている場合には、オスを繁殖群から切り離す必要がある場合がある。オスを繁殖群から分離する場合、別の放飼場（最低 45~100 m<sup>2</sup>）を利用できるようにしなければならない。可能であれば、ステレオタイプの行動（ペーシングなど）の発生を避けるために、オスを群れから隔離（視覚、聴覚、嗅覚においても）することが望ましい。

#### 3) 周囲柵

柵や壁は高さ 1.6m 以上、柵や壁の各面の角度 90 度以上になるようにする。金網を設置する場合は、仔馬の蹄が入らないように 5cm 以下とする。

#### 4) 設備・構造

自由に飲水ができるようにする。また、複数で飼育する場合は、給餌場所を複数設置す

る。

風雨・日差しを防ぐ遮蔽物（屋根、植栽など）を設置する。また、他個体や来園者からの視線を遮る遮蔽物を設置するのが望ましい。

地面は砂・土・草などの他、蹄が削れるような硬い素材を用いた場所があるのが望ましい。



グラウンド中央に設置された植栽帯（他個体から視線を遮る）



蹄を摩耗するためのブロックや礫と土を押し固めたもの

#### 参考文献

- U. Rademacher & A. Winkler (Eds). (2000): EEP African equids husbandry guidelines. Stuttgart: Wilhelma Der Zoologisch - Botanische Garten Stuttgart.
- Martha Fischer & Steve Shurter (Eds) (2001): HUSBANDRY STANDARDS FOR KEEPING WILD EQUIDS IN CAPTIVITY、 2001. AZA Ungulates.